

【 資 料 1 】

新たな射撃場のあり方検討委員会 第1回資料

平成28年11月29日

1 これまでの経緯について

- ・ 平成10年11月の銃弾事故を契機とした葦崎射撃場の移転陳情等を踏まえ、平成14年2月、葦崎市穂坂町への移転整備を決定した。
- ・ 平成15年11月、葦崎市穂坂町の実施設計を完了するとともに、葦崎市及び地元との協議を進めた。
- ・ 平成19年6月、進入路の変更などにより、事業費について、大幅な増額となる約30億円が見込まれたことから、コスト縮減や新たな候補地の調査を含め計画の再検討を表明した。
- ・ 平成19年12月、事業費が葦崎市穂坂町の半分(15億円)程度に抑制できる甲州市の市有地を有力な候補地とした。
- ・ 平成21年7月30日、地元との協定書のとおり葦崎射撃場を閉鎖した。
- ・ 甲州市の候補地について事業費を精査したところ、騒音・鉛対策などにより事業費が当初想定した約16億円から約23億円に増加したことから、コスト削減を検討したものの、削減額は8千万円程度に留まった。このため、平成22年9月、1年程度をかけて、規模の縮小、15億円程度で建設可能な適地の検討、整備の有無など、幅広く検討することとした。
- ・ 33箇所の候補地を検討したが、15億円程度で整備可能な適地はなく、平成23年9月、本県の財政状況を踏まえ、当面の間、県立射撃場の整備を凍結することとした。
- ・ また、クレー射撃練習を県外射撃場等で行う場合や管理捕獲のための訓練を県外射撃場で行う場合の旅費助成など、射撃場整備に代わる方策を講じていくこととした。
- ・ 更に、概ね5年後に、整備凍結と代替方策がクレー射撃の競技成績や鳥獣被害に与えた効果、影響を検証することとした。

2 代替方策の状況について

クレー射撃競技練習場確保事業費補助金

競技力の維持向上のために行う射撃練習に要する旅費等を補助するクレー射撃競技練習場確保事業費補助金の利用者数(年平均)は、葦崎射撃場の強化練習参加者数(年平均)を上回る数値となっている。

葦崎射撃場強化練習参加者数とクレー射撃練習場確保事業費補助金利用者数 (単位:人)

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
延人数	238	151	255	-	-	-	195	395	744	458

注：平成21年7月葦崎射撃場閉鎖、平成24年度から代替方策

管理捕獲従事者射撃訓練費補助金

射撃技術の向上と管理捕獲における捕獲効率を向上させるために行う県外射撃訓練に係る旅費を補助する管理捕獲従事者射撃訓練費補助金の利用者数(年平均)は、葦崎射撃場のライフル射場の個人利用者数(年平均)を上回る数値となっている。

葦崎射撃場の利用者数と管理捕獲訓練補助金の利用者数との比較 (単位:人)

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
延人数	483	464	450	-	-	-	357	405	635	719

注:平成21年7月葦崎射撃場閉鎖、平成24年度から代替方策。
 葦崎ライフル射場個人利用者数は、猟友会会員に限定してない。
 平成26年度から補助金の利用上限を2回に引き上げた。

3 競技力及び鳥獣被害の状況について

競技力に関する状況

国民体育大会における本県クレー射撃の競技成績

総合順位について、平成18年度から21年度までは4年連続で1桁台を記録し、また、葦崎射撃場閉鎖後の平成23年度、24年度も1桁台となったが、平成25年度からは3年連続して最下位となっている。平成28年度においては、9位となった。

国民体育大会におけるクレー射撃の競技成績の推移

(単位:位、点)

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
トラップ	2	4	17	21	7	16	5	23	44	30	6
スキート	31	-	5	4	11	1	-	10	-	-	-
総合順位	5	7	8	7	12	2	8	16 最下位	17 最下位	15 最下位	9
得点	31	25	22	25	16	34	22	10	10	10	19

注:総合順位は、参加点(10点)に、トラップ・スキート各種目の8位(24~3点)までに与えられる点数の合計による。
得点が参加点だけの場合、総合順位が10位台であっても、10点の都道府県が多数あるため、最下位となる。

「-」は、予選不通過。 H21.7葦崎射撃場閉鎖 H24から代替方策

都道府県立射撃場

全国において、県立等のクレー射撃場を有するのは47都道府県中、下記の10県となっている。(休場中の施設は除く。狩猟用の研修施設を含む。)

宮城県、茨城県、群馬県、神奈川県(平成14年度～平成24年度まで休場)、長野県、愛知県、岡山県、福岡県、佐賀県、熊本県(平成28年4月の熊本地震によりトラップが利用不可)

射撃場を有する都道府県のクレー射撃競技成績

射撃場の存否と競技成績との因果関係を探るため、国民体育大会のクレー射撃競技における入賞都道府県が射撃場を有しているか否かについて確認した。

平成24年度から28年度の間では、クレー射撃場を有する県の入賞率は44.9%(22/49)であり、有しない県は、26.3%(49/186)となっている。

国民体育大会クレー射撃競技の入賞状況(入賞/入賞+非入賞)

年度	H24	H25	H26	H27	H28	合計
有する県	4/9	4/10	7/10	4/10	3/10	22/49(44.9%)
有しない県	9/38	11/37	9/37	10/37	10/37	49/186(26.3%)

入賞数は、トラップ・スキートの各競技8位までが入賞となるため、最大で16となった。

クレー射撃場を有する県等の入賞状況

年度	H24	H25	H26	H27	H28
国体開催都道府県	岐阜県	東京都	長崎県	和歌山県	岩手県
都道府県立射撃場あり	宮城県	茨城県	宮城県	群馬県	神奈川県
	茨城県	群馬県	茨城県	神奈川県	長野県
	群馬県	神奈川県	群馬県	愛知県	愛知県
	愛知県	長野県	神奈川県	岡山県	
			長野県		
			愛知県		
			岡山県		
22/49(44.9%)	4/9(44.4%)	4/10(40.0%)	7/10(70.0%)	4/10(40.0%)	3/10(30.0%)
都道府県立射撃場なし	岩手県	北海道	北海道	北海道	岩手県
	福島県	岩手県	岩手県	岩手県	栃木県
	栃木県	秋田県	秋田県	秋田県	埼玉県
	埼玉県	栃木県	千葉県	栃木県	千葉県
	東京都	埼玉県	東京都	埼玉県	東京都
	神奈川県	千葉県	石川県	東京都	山梨県
	新潟県	東京都	奈良県	京都府	富山県
	山梨県	奈良県	香川県	奈良県	奈良県
	静岡県	香川県	長崎県	和歌山県	和歌山県
		愛媛県		長崎県	愛媛県
		鹿児島県			
49/186(26.3%)	9/38(23.7%)	11/37(29.7%)	9/37(24.3%)	10/37(27.0%)	10/37(27.0%)

鳥獣被害に関する状況

捕獲実績については、増加している状況にある。
一方、野生鳥獣による被害面積は概ね300ha前後を推移し、被害金額については、概ね5億円台を中心に推移している。

捕獲実績の状況

(単位：頭)

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
捕獲頭数	7,332	5,092	8,220	9,658	10,437	10,652	14,932	14,149	15,454	16,075

注：平成21年7月葦崎射撃場閉鎖、平成24年度から代替方策

鳥獣被害面積及び被害金額の状況

(単位：ha、百万円)

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
被害面積	478	366	388	420	300	259	303	298	330
被害金額	424	526	576	740	526	468	580	523	675

注：平成27年度の数値は国から公表されていない。

平成21年7月葦崎射撃場閉鎖、平成24年度から代替方策

狩猟者登録者数の推移

狩猟者登録者のうち、捕獲に従事することとなる第1種銃猟（ライフル銃、散弾銃等）の登録者数については、減少傾向にある。

(単位:人)

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
登録者数	2,432	2,350	2,235	2,140	1,999	1,864	1,767	1,694	1,642	1,623

注：平成21年7月葦崎射撃場閉鎖、平成24年度から代替方策

4 検証を踏まえた施設の必要性

スポーツ振興 ~ クレー射撃の競技力向上のための練習環境の充実

鳥獣被害対策 ~ 狩猟従事者の確保、技術向上のための練習環境の充実